

現代台湾における再建後の日本統治時代の神社を巡る政治過程

—台東県鹿野郷龍田村の鹿野村社を事例に—

野口英佑(神戸大学)

1. はじめに

2015年10月、台東県鹿野郷龍田村で日本統治時代に建てられ、戦後まもなく破壊された神社である鹿野村社が再建された。鹿野村社は宗教施設としてではなく、祭祀活動を行わない観光スポットとして再建された訳だが、本研究は、鹿野村社の再建完了後に着目し、地元自治体や国会議員といった各アクターが再建後の鹿野村社に対して、それぞれの政策を実施していく過程を明らかにしようとするものである。本発表では、冒頭、本研究の前提として、鹿野村社が再建された背景の説明を行い、その後、再建後の鹿野村社を巡る政治過程について論じていくこととする。本研究の舞台となる台湾は、1895年から1945年まで日本の植民地であったものの、日本において、台湾は親日的であるとのイメージは定着していると言えよう。実際、台湾には植民地時代に日本語で教育を受けた「日本語世代」と呼ばれる高齢の台湾人が存在しており、彼らはしばしば日本統治時代の記憶を懐かしそうに日本語で語っている。また、独立志向を有する民主進歩党と対中国融和路線の中国国民党の二大政党が政権を競い合う台湾において、現在の政権与党は民主進歩党である。戦後長らく政権を掌握してきた中国国民党は、しばしば日本統治時代に対する批判を行っている。一方、民主進歩党は、日本が統治する以前にオランダや清が統治していた時代と同様に、日本統治時代も台湾が歩んできた歴史の一部として位置付けている。また、現在台湾のトップである総統を務める民主進歩党の蔡英文は、日本で災害が発生した際など、しばしばSNS上で日本人に対して日本語でメッセージを発信しており、民主進歩党を親日的であると捉えている人は多いのではないだろうか。したがって、「親日的な民主進歩党政権の時代に、日本統治時代を懐かしむ「日本語世代」の人々の思いが結集して、日本統治時代の神社が再建されたのではないか。」という仮説を立てる人がいても不思議ではない。しかし、鹿野村社の再建に関しては、そのような仮説が適用可能である条件には当てはまらないことが明確である。まず、現在の鹿野郷龍田村は、戦前サトウキビの栽培のために新潟県などから移住した日本人移民や行政機関等に勤務する極めて少数の台湾人エリートのみが居住を許された地域であったため、日本統治時代の鹿野村社を知る「日本語世代」と呼ばれるような人々はほとんど存在していない。また、鹿野村社が再建された2015年10月は中国国民党馬英九政権の時代であり、親日的であると認識されることが多い民主進歩党政権の時代に再建された訳ではない。むしろ、民主進歩党陳水扁政権時代の2000年代前半に鹿野村社の再建が検討されていた際には、台湾の観光政策を執り仕切る中央政府の最高機関である交通部観光局の局長の判断によって、鹿野村社の再建は一度見送られているのである。更に、台東県が位置する台湾東部地域は伝統的に中国国民党支持者が多い地域であり、なおかつ日本台湾交流協会が実施した2018年度対日世論調査¹において、日本に親しみを感じる人の割合は、他の地域に比べて10パーセント以上も低い。以上のように、鹿野村社の再建においては、一般的に想定され得る日本統治時代の神社が再建される条件は揃っていなかったと言えよう。しかし、鹿野村社の再建は、交通部観光局の地方機関（花東縦谷国家風景区管理处）のトップであった陳崇賢の主導により、いわば「トップダウン」で行われた。陳崇賢は、鹿野郷を含む地域に日本人向け

¹ 日本台湾交流協会（2019年11月13日）

の観光ルートの整備をするために鹿野村社を再建させることを決め、地方自治体のトップである鹿野郷長と地元住民への根回しを行うなど、自らが積極的に計画を推し進めたことにより、鹿野村社の再建は実現したのである²。

そして、本研究においては、このように中央政府側によってトップダウン的に再建された鹿野村社について、再建完了後、地元自治体及び民主進歩党所属の国会議員といった各アクターが鹿野村社に対してどのような政策を行っているのかについて、報道だけでなく、聞き取り調査や SNS を用いながらその過程とともに明らかにしつつ、政策の受容者である地元住民の鹿野村社に対する姿勢を、各政策が実施されていく政治過程の中で付随的に論じていくこととする。

2. 地元自治体（鹿野郷公所）の政策

中央政府側の主導によって再建された鹿野村社だが、再建後は地元自治体の役所である鹿野郷公所によって管理及び維持されている³。また、鹿野郷公所は、再建された鹿野村社をどうにかして活用するために、様々な政策を実施している。1つ目は、鹿野村社を活用した地元の高齢者向けの政策である。台東県鹿野数位機会中心（以下、鹿野 DOC (Digital Opportunity Center)）は、鹿野郷の住民に対してデジタル学習の場を広く提供する学習センターであり、鹿野郷公所が管理を担っている。鹿野 DOC は、学生や外国人住民等を対象にしたパソコン講座を開催したり、鹿野郷下の各村に出向いて高齢者を対象にしたタブレット端末の活用方法を教える講座を開催したりしている。鹿野 DOC は、それらの活動の一環として 2017 年 3 月に龍田村で高齢者を対象にしたタブレット講座を開催した。対象者は龍田村の住民だけでなく、他地域の住民も対象としていた。授業では、参加者がタブレット端末に慣れ親しむことを目的に、事前に鹿野 DOC の職員が参加者の化粧や簡易的な和服や韓服の着付けを行った上で、参加者同士が鹿野村社の前でお互いの写真を撮り合うというものであった。参加者が着用した和服や韓服については、鹿野



写真 1 タブレット講座の参加者
鹿野 DOC (2017 年 3 月 17 日)

郷公所の職員で、鹿野 DOC の活動にも参画している洪飛騰が、自ら遠く離れた台湾北部の台北や台湾南部の高雄に足を運ぶとともに、費用をすべて自腹で負担して準備したのだという。日本式の神社の前での撮影にもかかわらず韓服を準備した理由については、韓国ドラマが好きで参加者から韓服を来たいという要望があったことや、サイズの関係上和服を着ることが難しい参加者は、服の幅に余裕のある韓服を着てもらおうという意図があったのだという。このように洪飛騰は授業の準備に費用と時間を要しながらも、自らが受け取る代金は講師料のみで、洪飛騰の負担は大きかったと言える。しかし、参加者にとっては、普段なかなかする機会が無くなっていた化粧を行うことができ、なおかつ美しい和服と韓服を着て日本式の神社の前で写真撮影ができる機会ということで、参加者は神社に参拝儀礼を真似するなど、非常に楽しんで活動に参加していたのだという。このように、授業自体は地元の高齢者を対象としたタブレット講座であったものの、鹿野郷職員の洪飛騰は費用と時間をかけて和服や韓服の準備を行っていたのである。その理由について、洪飛騰によると、鹿野村社の知名度を上げたいという思惑があったのだという。鹿野村社の知名度は台湾全体だけでなく、鹿野郷においても知名度はそこまで高くないようである。実際、授業の

² 野口英佑 (2021)

³ 交通部観光局花東縦谷國家風景區管理處 (2015 年 12 月 1 日)

参加者のうちの1人が鹿野村社の前で撮った写真を孫に見せたところ、日本に旅行に行ってきたと勘違いされたのだという。洪飛騰自身も、講座当日の写真を他地域の大学生に見せるなど、少しでも鹿野村社の知名度を上げるための取り組みを行っており、このような活動を通して鹿野村社の存在が口コミなどで広まっていき、観光スポットとしてもっと有名になってほしいのだという⁴。

そして、鹿野郷公所による2つ目の政策が、「桜」の植樹である。2018年3月、鹿野郷公所は鹿野村社境内に、「桜」の植樹を行ったのだが、「桜」と言っても、予算の都合上、日本の桜を植えることは厳しく、「タイの桜」とも呼ばれるカンラパ・プルック（花旗木）を植えることにしたのだという。洪飛騰は鹿野村社を美しい桜が咲き誇る写真スポットとすることで観光客の増加が期待できると考えていた。加えて、観光客の増加に合わせて、地元住民たちが鹿野村社で写真撮影を希望する観光客向けに和服などを貸し出す貸衣装店や写真撮影を行う写真店などの新しいビジネスを始めるきっかけとなることを期待しており、鹿野村社を新たな収入源とすることで経済の活性化を目指していたのだという。鹿野郷公所は、植樹事業を行うに当たり、鹿野村社に隣接する道教の寺院（崑慈堂）を管理している地元住民からの同意を得ることにした。しかし、地元住民が当初は反対の意向を示しており、説得には時間を要したのだという。それでも鹿野郷公所として、龍田村の経済を良くしたい旨を地元住民に対して丁寧に伝えていくことで、最終的には同意を得ることができたのだという。



写真 2 鹿野村社境内のカンラパ・プルック
龍田社區發展協會（2020年5月3日）

鹿野郷公所によって植樹された75本のカンラパ・プルックは、成長段階を経て、2020年5月頃に初めて開花したようである。龍田村の発展を目指す住民組織（龍田社區發展協會）はFacebookの投稿で観光客の訪問を報告しており、一定程度、観光客の増加に繋がっている側面が窺えるが、筆者が確認できる限りでは、洪飛騰が期待していたような貸衣装店や写真店などは開かれていないようである⁵。

3. 民主進歩党の国会議員（劉權豪立法委員）の政策

民主進歩党政権の時代における鹿野村社再建に係る経緯を振り返ると、2000年代前半の民主進歩党陳水扁政権時代においては、交通部観光局長の判断で鹿野村社の再建を見送っているものの、民主進歩党蔡英文政権の時代においては、台東県選挙区選出の民主進歩党所属の国会議員（立法委員）である劉權豪が再建後の鹿野村社に対して積極的な関与を見せている。劉權豪は、2019年11月、交通部長（大臣に相当）による鹿野郷の観光政策に関する視察を主宰した際、鹿野村社の視察も行った。劉權豪は交通部長に対して「鹿野龍田神社拠点」改善計画の実施の必要性を訴え、中でも鹿野村社付近の公衆トイレの老朽化が進んでおり、公衆トイレの改修工事の実施を強く求めた。その結果、交通部長はその場において予算の確保に向けて全力で支持することを明言した。結果的に、公衆トイレの改修工事及び鹿野村社周辺の景観整備に対して約1300万新台湾ドル（当時約4800万日本円）の予算が計上され、それらの工事は鹿野村社の再建を行った交通部観光局の地方機関（花東縦谷国家風景区管理处）によって行われ

⁴ 洪飛騰談（2018年11月15日）、林瑞燕談（2018年10月19日）、星樂傳播社（2017年3月16日）

⁵ 龍田崑慈堂（2018年4月3日）、龍田社區發展協會（2020年5月3日）

ることとなった。計画の内容については、劉權豪の秘書、鹿野郷長、鹿野郷公所の職員や地元住民などと議論を行いながら検討が進められ、最終的に2020年11月までに工事は完成した。工事は観光政策の一環として行われたものであり、観光政策を強化することが表向きの目的として挙げられている。しかし、実際、公衆トイレは鹿野村社の附属施設ではなく、周辺の龍田村の住民組織や老人会館等の利用者向けという意味合いが強いものであった。工事に対する地元住民の反応の詳細については、調査途中ではあるが、現在確認できる範囲においては、地元住民から目立った反対意見は無い⁶。地元住民は日常的に公衆トイレの前の広場で会話や運動を楽しんでおり、日頃利用する公衆トイレの改修工事はメリットの大きい政策であったことが窺えるのではないだろうか。

4. まとめ

以上、本研究では、国民党馬英九政権時代に中央政府側の主導によって再建された日本統治時代の神社に対する地元自治体及び民主進歩党所属の国会議員の政策について明らかにするとともに、それらの政策に係る地元住民を交えたミクロな政治過程について論じてきた。地元自治体は、予算上の制約を受けながらもタブレット講座の開催や桜の植樹といった政策を通じて、地元住民からの反対を受けてもなお、再建後の日本統治時代の神社を何とかして観光スポットとして活用することを目指している姿が明らかとなった。その一方で、民主進歩党所属の国会議員は、地元住民の生活環境の改善に直結する公衆トイレの改修工事を、地元住民から目立った反対を受けることなく、再建後の日本統治時代の神社と関連付けた観光政策として実現させたことが明らかとなった。本研究で取り上げた鹿野村社について、報道やコラムでは、鹿野村社の再建を望む地元住民の姿がしばしば描かれている。しかし、聞き取り調査を注意深く分析していくと、施政者である行政機関や議員の政策と、日常生活に密接した実益を得ようとする地元住民の狭間で揺れる日本統治時代の神社の姿が浮かび上がった。

参考文献

- 日本台湾交流協会（2019年11月13日）『2018年度対日世論調査』https://www.koryu.or.jp/Portals/0/culture/世論/2018_seron_shosai_JP.pdf（アクセス日：2020年1月23日）
- 野口英佑（2021）「台湾における日本統治時代の神社の再建に関する一研究 —キーパーソンの働きから見る鹿野村社の再建前夜—」日韓次世代学術フォーラム『次世代人文社会研究』第17号、241～263頁
- 東台有線（2020年11月5日）「20201105 遊鹿野必訪景點龍田神社 劉權豪助爭取改善經費」<https://youtu.be/xmIMCAR46Zs>（アクセス日：2022年7月15日）
- 交通部觀光局花東縱谷國家風景區管理處（2015年12月1日）「設施認養契約書 臺東縣鹿野鄉龍田村日本神社認養」
- 劉權豪（2020年11月3日）<https://www.facebook.com/213939351983587/posts/pfbid02tbSoRf3YL8FhWqbAyYTiaDgAdvFtwZyf9xZdwbHe8XGJLvKKNae1QfdojkbX2kMil/?d=n>（アクセス日：2022年7月15日）
- 龍田崑慈堂（2018年4月3日）<https://www.facebook.com/2306819716264271/posts/pfbid0dpoUjvARnwdiTcmuyv3WqofhBP27LX8zf6bBjSJ6LEHTEVGjnntSeJo85bnjtwR21/?d=n>（アクセス日：2022年7月15日）
- 龍田社區發展協會（2020年5月3日）<https://www.facebook.com/2306819716264271/posts/pfbid0dpoUjvARnwdiTcmuyv3WqofhBP27LX8zf6bBjSJ6LEHTEVGjnntSeJo85bnjtwR21/?d=n>（アクセス日：2022年7月15日）
- 臺東縣鹿野數位機會中心（2017年3月17日）「[溫馨故事]數位沙龍攝影 龍田神社體驗和韓服 -2」https://itaiwan.moe.gov.tw/doc/story_info.php?doc=137&id=523&type=plan（アクセス日：2022年7月15日）
- 星樂傳播社（2017年3月16日）「20170316時光記憶站 龍田神社體驗和韓服」<https://youtu.be/AR5Kz4mE8Wo>（アクセス日：2018年10月19日）
- 自由時報（2019年11月14日）「林佳龍視察台東 大方允諾2億多元建設需求」<https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/2977937>（アクセス日：2022年7月15日）

⁶ 東台有線（2020年11月5日）、劉權豪（2020年11月3日）、自由時報（2019年11月14日）